２０２０年度　群馬大学共同教育学部
推薦入試問題

教育専攻

小論文

注意事項

1．試験開始の合図があるまで，この問題用紙を開いてはいけません。
2．問題用紙は表紙を含め２枚，解答用紙は１枚，下書用紙は１枚です。落丁，乱丁，印刷不鮮明の箇所があった場合には申し出てください。
3．受験番号と氏名は全ての解答用紙の所定の欄に必ず記入してください。
4．解答は指定の解答用紙に記入してください。
5．解答用紙は持ち帰ってはいけません。
6．問題用紙と下書用紙は持ち帰ってください。

教育専攻 小論文

問題　次の文章を読んで，以下の問いに答えなさい。（あわせて 800 字以内）

(1)　著者のいう「解る」とはどういうことか。説明しなさい。
(2)　(1)で答えた意味での「解る」について，あなたのこれまでの「解る」という経験を一つ取り上げ，その内容について説明しなさい。

上原先生[注)]のゼミナールのなかで，もうひとつ学んだ重要なことがあります。先生はいつも学生が報告をしますと，「それでいったい何が解ったことになるのですか」と問うのでした。それで私も，いつも何か本をよんだり考えたりするときに，それでいったい何が解ったことになるのかと自問するくせが身についてしまったのです。そのように自問してみますと，一見解っているように思われることでも，じつは何も解っていないということが身にしみて感じられるのです。

「解るということはいったいどういうことか」という点についても，先生があるとき，「解るということはそれによって自分が変わるということでしょう」といわれたことがありました。それも私には大きなことばでした。もちろん，ある商品の値段や内容を知ったからといって，自分が変わることはないでしょう。何かを知ることだけではそう簡単に人間は変わらないでしょう。しかし，「解る」ということはただ知ること以上に自分の人格にかかわってくる何かなので，そのように「解る」体験をすれば，自分自身が何がしかは変わるはずだとも思えるのです。

（出典：阿部謹也『自分のなかに歴史をよむ』筑摩書房，1988 年，pp.16-17）

注）上原先生―筆者・阿部の大学時代の指導教員である上原専禄（1899～1975）のこと。上原は，中世ヨーロッパ史を専門とする歴史学者。